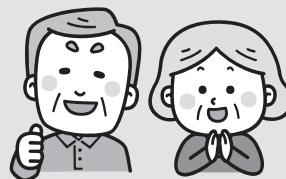


私の自慢 コンテスト 結果発表

「私の自慢」をお送りいただき、ありがとうございました。編集部で1点1点読ませていただき、以下の賞を選出しました。

※誌面の都合で内容を要約させていただいております。



心掛け自慢賞	-----	4名
趣味自慢賞	-----	6名
仕事&特技自慢賞	-----	6名
家族自慢賞	-----	6名

結果発表を月刊デイホームページで紹介しています。

月刊デイ 検索

心掛け自慢賞

「言いたいことは明日言え」

私は気が弱い。でも、強いことがあります。それは「我慢強い」ことです。嫌なことがあれば無視です。「沈黙は金」というように、我慢すれば何でもうまくいきます。言いすぎて後悔することも多々あります。母が生前、「言いたいことは明日言え」と言っていました。確かに言いたいことがあっても、明日になれば「大したことがないこと」が多いようです。だから、我慢強いことが私の特権だし、自慢です。

デイサービスセンターこはく
ペンネーム きみえ鯛様(72歳)

デイの食事は毎日完食です

私は毎日おいしく食事が食べられることが自慢です。デイサービスに1年半お世話になっていますが、昼食は毎回100%完食です。家では娘にすべておまかせですが、汁物は汁を残すようにして塩分を調節し、野菜・肉・魚など1日に30品目は食べていると思います。食べられることは幸せなことです。

デイサービスセンター小仙波
ペンネーム くいしんぼうパパ様(85歳)

日ごろから見たこと感じたことを文章に

とにかく文章を書くことが好きで、日ごろから見たこと感じたことを文章に書きたくなります。父が「お前が姉弟ではいちばん文才がある」と言ってくれるので、ついその気になり、父の喜びそうなことを手紙に書いて出すと、父はいつも「お前の手紙はおもしろい」と言って、どんなしょもない手紙にも返事をくれました。父も書くことが好きだったので、いろいろと書きためていたようです。

クローバーサービス デイサービスセンター
山内 佳織様(90歳)

毎日の歯磨きとデイの点検で22本の歯を維持

私の自慢はなんでも食べられる強い歯を22本持っていることです。リンゴも丸かじりできます。毎日の歯磨きとデイの点検で維持しています。いつまでも自分の歯で何でもおいしく食べられるようにしたいです。



ふれあいデイサービスセンター鶴寿
鈴木 清子様(80歳)

趣味自慢賞

キノコ採り名人

山菜やキノコ採りが趣味で、天然のキノコを1シーズンに200キロぐらい採り、近所の人や友だちにあげたり、塩漬け保存して冬の料理にします。毎年、日記に採取した場所と日時を記録しておき、次の年も同じ場所に行って探るのでハズレはありません。良い場所が見つかると1ヶ所で60キロも採ることがあります。僕の自慢です。



介護老人保健施設
希望の里 松涛園
斎木 健治郎様
(78歳)

びっしりとシイタケが生えた木の前に立つ斎木様

民謡でたくさんの賞を受賞

民謡会の慰問の唄に刺激を受け、はまることが35年。発声・声量・声色と民謡の声を出す努力をしてきました。数々の賞を受賞し、2013年には中野サンプラザホールで行われた日本郷土民謡春季大会で優勝しました。

介護老人保健施設アルメリア通所リハビリ
木村 多恵子様(80歳)

描きためたスケッチブック

数年前、サ高住に入居した際に、長男のお嫁さんがスケッチブックと色鉛筆を買ってくれました。それをきっかけに季節の草花やくだもの、和菓子などを写生しています。蕪村や子規の句を添えることもあります。失敗作も破らずそのままにしています。1冊1冊めくっていると、それを描いた時のことが思い出されて、まるで絵日記のようで楽しいです。私の自慢は人生の足跡もあるスケッチブックです。

デイサービスセンター中谷
ペンネーム やまつたやすよ様(85歳)

60歳からスイミング

子どもの頃から海や山に行ったこともなく、まったく泳げませんでしたが、60歳になったときに妹に誘われてスイミングスクールに通い始めました。半年ほどで泳げるようになり、平泳ぎ、クロール、何でも泳げるようになりました。60~80歳までの20年間、自分で車に乗って通いました。

葭池デイサービスセンター
内藤 かづ子様(98歳)

写真とたくさんの友

私の家は、私が撮った写真と賞状でいっぱいです。定年後に始めた趣味のカメラで北海道や長野の山々、風景、星空を写真に撮ってはいろいろなところに応募し、賞をいただきました。写真友達もたくさんできました。これが私の自慢です。

自立の森デイサービスセンター
ペンネーム 武夫様(78歳)

絵手紙が大きな力に

54歳で右半身まひとなったときは心身ともに大きなダメージを受けましたが、3年後に出会った絵手紙に取り組むうちに利き手交換もスムーズにでき、私に大きな自信を与えてくれ、介護施設に入所していた母に絵手紙を送り続けました。そして偶然にも去年から私も同じ施設のデイサービスに通うことになりましたが、そこには以前、母に送った絵手紙の一部が16年以上も経ったのに展示していました。自分の描いた絵手紙に見守られて励むリハビリは楽しいです。絵手紙は大きな力をしてくれる自慢の宝物です。



介護老人保健施設
シルバーマリン
久家 藤様(81歳)

お母様に送った絵手紙

仕事＆特技自慢賞

生徒の言葉が自慢

服飾デザイナーへの夢を抱きつつ、家庭の事情で中学卒業後は就職。昼間は働き、夜間に洋裁・和裁・編み物を学ぶ中で、編み物の講師になる夢が膨らみました。そのために、夜間、パートで働きながら日中の授業に1年間通い、晴れて講師となりました。機械編みの講師をする中で、生徒から「和田先生は分からないところを何回聞いても優しく教えてくださって嬉しかったです」と言われたことが私の自慢です。

高須デイサービスセンター
和田 佳子様(79歳)

そろばん大会で7位に

小学校5年生のときにそろばん塾主催の学年別大会で読み上げ算と暗算の2教科に参加して7位に入賞することができました。塾の先生に「この大会をあなたの自慢の一つにすればよい」と言われ、商業高校に進み、高校2年のときに1級に合格。先輩が開いていたそろばん塾を手伝い、たくさんの子どもたちにそろばんの良さを伝えてきたことが自慢です。



淡路診療所デイケア
安波 幸司様(73歳)

日本刀の手入れができます

私は日本刀の手入れと保存ができます。刀にはいろいろな刃文があります。刃文の上は「しのぎ」といいます（「しのぎをけずる」ということわざもあります）。戦後、米軍の命令ということで刀を全部集め、近くの鉄工所で処分しました。米軍の命令というのは風評で、惜しいことをしました。今もそのときの刀があればと思います。



こうざきデイケアリハビリテーションセンター
もみの木
姫野 正也様(84歳)

子育てしながら軽トラ運転手

若いときから男性に混じり軽トラックの運転手をしていました。25歳～75歳まで働き、家事や子育てもしながら毎日朝9時から約80キロは走っていました。夫は運転免許がなかったため、家庭の用事や送迎も私がしました。仕事、家庭と忙しい毎日でしたが、私なりに手を抜くことなく両立していました。このがんばりが私の自慢です。



西中病院デイケア
工藤 節子様(86歳)

一生を建築に打ち込んだ人生

終戦を迎え、満州から引き揚げ、移動の途中で広島や姫路の惨状に驚きながら、大阪へ。その後は引揚者住宅の狭さに苦労しながら家族で暮らし、アルバイトと育英資金で公立の建築学科を出て建築事務所に就職しました。大阪万博で建築の可能性に開眼し、設計事務所を開設。オイルショックで景気は悪かったものの、オフィスビル、ホテルなど仕事が増えて業績も伸びました。75歳で同じ大学の後輩に会社を譲り、退職するまで、一生を建築に打ち込んだ人生でした。

福島ともしび苑デイサービスセンター
ペンネーム アッキー様(86歳)

娘の服や孫のドレスは手作り

かわいい孫のピアノの発表会に着用するドレス（フリフリのレース）を、孫のイメージに合わせて手作りしました。作ることが楽しくて絵に描いて何種類も完成させ、数々の発表会で着てもらいました。娘の服も成長に合わせて作り、店ではほとんど購入しませんでした。成長に合わせて服を作り続けてきたことが私の自慢です。

デイサービスやまぼうし
小林 英子様(96歳)

家族自慢賞

お母ちゃんの染物屋

4人姉妹の長女だった私は、母の苦労が少しは分かっているつもりでしたが、11歳のとき、母に「うちかて皆と浴衣着て夏祭りに行きたい!」と言いました。母は「着物あるけど帯あらへん」と、夜遅くまで白い布に絞りを入れ、翌日、大きな釜できれいな桃色に染めてくれたのです。それはもう大輪の朝顔が咲いたような見事な染め上がりで、私はその帯を締めて皆と出掛けました。母は身をもって思いやりということを教えてくれたと思います。帯は私の一生の宝物で今も大切にしまっています。私の自慢の母です。

千秋病院デイケアセンター
鈴川 美知子様(77歳)

妻の笑顔

ママ(妻)とは大学3年のときに長崎の岡政デパートで知り合い、天下一品の笑顔に惹かれました。結婚して66年になりますが、私が知る限り、一度として人を不愉快にさせたことがありません。私は幸せです。

通所介護ライズ古賀
西山 信昭様(88歳)

当時は珍しかった三つ子です

昭和34年生まれの三つ子です。排卵促進剤がまだなく、保育器も大都会しかない時代でしたので、三つ子は全国で9組しかおらず、「小川宏モーニングショー」や「3時のあなた」に出演し、梓みちよと手をつないでTVに出たこともあります。



デイサービスセンター野の花
橋本 信樹様

義母のおかげで治療に専念

私の自慢は主人のお母さんと出会えたことです。小学校の先生をしていた義母は、子どもたちをとてもかわいがってくれ、私の産後には毎日おいしい食事を作ってくれました。

今年の夏、私が突然自己免疫疾患を発症し、入院することになったときも、義母が2ヶ月間、我が家に住み込んで子どもたちの世話をしてくれました。おかげで安心して治療に専念することができました。実家の母と同じくらいかけがえのない存在です。

ペンネーム タピオカ様(36歳)

姪はゴールボールのメダリスト

「勝った!日本女子、ゴールボールでエルサレムに勝った!銅メダルです!」アナウンサーの実況を聴きながら、私は固唾を飲んでテレビで試合を見ていました。試合に出ていた3人の日本代表選手の一人、背番号3が私の姪です。目が不自由な姪は、高校時代の友人の勧めでゴールボールを知つてのめり込み、東京パラリンピックで銅メダリストになりました。年に260日間、合宿をし、ハンデをものともせず自分の夢を追い、ひたむきに努力し続けた姪を尊敬し、誇りに思います。

あったかいごデイサービスみこだ
欠端 良昭様(71歳)

孫はタカラジェンヌ

聖書に「老人の冠は孫である」という言葉がありますが、私の自慢は孫です。宝塚音楽学校に入学し、花組の男役として舞台に立ちました。その後、アメリカでアメリカ人の弁護士と結婚し、ルカちゃんという男の子に恵まれました。長生きしてイケメンになったルカちゃんに会いたいと思います。

富家リハビリセンター花見川
平井 和子様(88歳)